いとすぎの丘

学校法人 日本赤十字学園
日本赤十字豊田看護大学
Japanese Red Cross Toyota College of Nursing
Vol.9　発行日／2009年4月

卒業式

■ 卒業生の言葉
卒業。そして・・・　卒業生　神保　章彦
新たな道へ　卒業生　岩吹　美紀

■ 学生生活
自治会紹介　My best university　学生自治会役員　稲川　依里
サークル紹介　テニスサークル紹介　後藤　弘美
ACサークル紹介　篠原　千紗
発汗部「なんか・・・汗臭くない!?」　佐々木　康行

■ 平成20年度公開講座紹介
心の健康シリーズ「第2回　パーソナリティー障害」　専門基礎　教授　端谷　毅
心の健康シリーズ「第３回　うつ病」　専門基礎　教授　端谷　毅
はつらつ生活は食育から　小児看護学　助手　鈴木　弘美

■ 愛知県集中豪雨救援活動に参加して　学生　稲垣　亜有子

■ 情報化・標準化時代の看護　基礎看護学　教授　杉浦　美佐子

■ 平成20年度中部ブロック赤十字病院夏季セミナーを開催　赤十字看護学　教授　奥村　潤子

■ Academic Library　図書館の季節　夏編　司書　中尾　明子

■ 研究の窓、研究室紹介　疫学と多変量解析　専門基礎　教授　西川　浩昭

Information

■ 平成21年度公開講座のお知らせ　■ 平成21年度入学試験志願者状況
■ 平成21年度大学の動き（4月～9月）　■ 編集後記

第二回卒業式の開催について

平成21年3月17日（火）13時から14時30分にかけて第二回卒業式が日本赤十字豊田看護大学講堂にて開催されました。卒業生、在校生をはじめとして、ご父兄、ご来賓、教職員が参加をして荘厳な雰囲気の中でおこなわれました。卒業生140名は希望と期待を胸に新しい世界へ飛び立っていきました。

卒業生の言葉

卒業。そして・・・

神保　章彦

卒業が間近に迫り、私は今看護師になろうとしていることを改めて実感してしまいます。同時に、いつしか看護師になることに少しずつ覚悟ができてきました。将来を設計する岐路に立たされている方々にとって、この先悩むことは非常に多いと思います。

私は大学受験当時医療職に興味を持っていましたが、正直なところ看護師になるという明確なビジョンを描いていませんでした。しかし、紆余曲折を経てこの四年間で教職員の方々、実習先でお世話になった看護師・保健師の皆さんなど数多くの方々に支えられ、多くの体験を通して様々なことを学ばせて頂きました。そして、看護師という職業がいかに素敵で可能性の秘めたものかということに気づくことができ、さらに、私を大きく成長させてくれる要因となっています。

さて、臨床に出るのが間近に迫った今、決して安易な気持ちでは務まらないというのは至極当然だと思っています。現在臨床に出ている先輩に直接話を伺いましたが、かなり苦労を重ねておられる様子です。医療の世界は日進月歩であり、常に勉強を欠かすことはできません。また、命と向き合うことを余儀なくされ、ときには厳しい現実を直視しなければならないこともあるだろうと思います。それに少子・高齢化や医師・看護師不足が深刻な問題となり、地方の病院は閉鎖せざるを得ない状況にまで陥っている現状では、過酷な勤務状況を受け入れるときもあるかもしれません。

大きな可能性を秘めている一方、患者さんの生命・心・生活等を預かるという大きな責任も伴っているのが看護師です。それでも看護師として社会に出ることは非常に収穫の多い、魅力的で意味のあるものだと私は思います。

新たな道へ

岩吹　美紀

看護の魅力に取り付かれて、無我夢中で14年間を駆け抜けてきました。そして、さらに学ぶことの必要性を痛感し、無我夢中の日常から脱却して、学び直しに挑戦すべく大学に編入し、早くも２年が過ぎました。今振り返ってみれば２年間は、あっという間でした。「十年一昔」とはよく言ったもので、大学での学びは、15年以上前に私が学んだ看護学とは隔世の感が否めませんでした。看護の本質は何ら変わりませんでしたが、その実践は「エビデンス」を確認して行うことに驚かされ、また、多くのエビデンスが実践の現場や看護研究者によって作られていることに感心しました。まさに「目から鱗」の連続でした。

私自身が当然と思い込み、先輩から伝えられたまま実践していた臨床での経験（看護技術）の一部は、実はエビデンスに乏しく、現在は否定されて実施されていない・・・そんな現実に気づく場面もありました。逆に、対象に合わせたより良い看護実践が暗黙知のままではなく、形式知にまで変換されて知識として確立されているものにも出会いました。看護大学生として学ぶ間に、「看護は、まだまだ発展途上の段階であること、自身の歩んできた道とこれから歩んでいく道のどちらも看護の歴史の過渡期にあたること、私たちは実践しながら変化を確認できる稀有な存在になれるかもしれないこと･･･」といった思いが湧き上がり、そのような幸運の只中にいるという事実に、何度奮い立たされたか知れません。現在、エビデンスを作り的確に使うことが「当たり前」となりつつある時代に、再度看護を学び実践できる幸運は、私の中では「看護の魅力」を大きくする原動力となっています。看護実践は、常に向学心を持ちながら学び続けていく上に成り立つこと、専門職として学び続けることが大切であることを実感できています。

大学生活では、臨床経験を持つ頼りがいのある素敵な友人たちに恵まれました。臨床から一歩離れて見つめ直す機会を与えられた者同士として、互いの夢を尽きることなく語り合い、未来予想図を描きながら至福の一時を過ごすなど、充実した日々でした。これからの人生において悩んだ時、つまずいた時に相談しあえるかけがえのない生涯の財産を得ました。また、私のチューターは、看護師としては勿論、母・妻としても尊敬できる人で、相談にも親身にのってくれる「人生のスーパーバイザー的存在」でした。的確な指導とアドバイスに支えられ、今卒業を迎えます。

看護職には、常に感性が問われます。人間味ある看護を実践していく上でも、さまざまな経験と人との出会いや繋がりが大変重要です。日本赤十字豊田看護大学での一期一会に感謝し、今後もこの繋がりを大切にし、大学で学んだ貴重な経験を活かしていきたいと思います。学んだこと、大学で支えてくださった教職員・友人との出会いを糧に、そして繋がりを誇りにして新たな看護の道を私らしく歩んでいきます。

自治会紹介

My best university

学生自治会役員　稲川　依里

私たち日本赤十字豊田看護大学生は、日々自分たちの目標に近づくために全員が一生懸命、勉学に励み充実したキャンパスライフを送っています。看護の勉強は決して甘いものではありませんが、それでもギブア

ップする子が少ないのは、学生一人ひとりに熱心に指導してくださる先生や、親身になって相談にのってくれる仲間がいる環境が整っているからであると思います。今回は、そんな素晴らしい環境がそろっている本学の大学祭とサークルについて紹介したいと思います。

一生懸命勉学に励む学生が力を注ぐ場は、授業のみにとどまることなく、サークルや大学祭などの活動にも遺憾なく発揮されています。

本学の大学祭であるいとすぎ祭は、カリキュラムの関係上、他大学よりも少し早い５月中に開催されます。大学祭の内容は、学生自身で提案した催し物や模擬店などはもちろんのこと、ヘルスチェックや炊き出しなどといった日本赤十字学園の看護大学らしいコーナーも多く企画しています。中でもヘルスチェックは一般来場者の方にも大変人気があり、毎年多くの方が足を運んでくださっています。来場者の年齢層も幅広く、小さなお子様からお年寄りの方まで楽しんでいただいています。

一方、サークル活動では、自分たちの好きなことに力いっぱい楽しんで取り組んでおり、普段真剣に授業を受けている時とは異なる一面を垣間見ることができます。サークルは全部で18団体存在し、サッカーやバレー、バドミントンなどスポーツをするサークルの他、献血サークルや奉仕活動を行うサークルなど、他の大学ではあまり見られない少し変わったサークルなどがあります。そのようなサークル活動の中で、１年生から４年生までが交流を深め友達のような関係を築きあげています。

このように勉強や大学祭、サークルなどに常に精一杯取り組む人たちが多くいる大学に入学できたことを、私自身本当に誇りに思っています。

サークル紹介

テニスサークル紹介

後藤　弘美

こんにちは！！テニスサークルです！！私たちテニスサークルは、週１～２回（水・木曜日）授業後に、辺りを一望できる大学のテニスコートで活動をしています。活動内容は練習が中心で、ラリーをするだけでなく、ボレーやサーブなどの技術を磨いたり、独自の練習方法（罰ゲームあり！？）で基本の練習をしたり、実践形式でゲームをしたりしています。

テニスってやったことない…そんな心配はご無用！！私たちの中にはテニス初心者の人もいますが、その人にはみんなで教えあい、だんだんと技術ができるようになってくるとみんなで喜び合います。練習していくうちに、初心者だった人が経験者相手に対等にラリーを続けられるようになります。ときには経験者をも打ち負かすほどです。実践形式のゲームでは、先輩・後輩・男・女関係なくチームを組んで試合をしています。時々チームを変えて、また違ったパートナーで試合を行っています。

しかし練習だけでは本当の技術は身に付かないため、

年２回、春と秋に名古屋第一赤十字病院のテニス部の方たちと交流戦を行っています。名古屋第一赤十字病院の方たちはみんな強い方たちばかりであるため、とても勉強になります。試合で私たちの練習の成果を発揮し、その中で自分の課題を見つけ今後それを達成できるような練習を行い、また試合で発揮する…その繰り返しでだんだんと技術を習得していきます。この試合には顧問の東野先生も参戦し、一緒に試合を楽しんでいます。試合以外でも、看護師の先輩として現場の話を聞いたり、大学の勉強でのアドバイスをいただいたりと、とても楽しいひと時です。

サークルメンバーは写真にもあるようにみんな明るく、いつも笑いが絶えないメンバーです。先輩・後輩の仲も良く、男女の仲も良いサークルです。時には忘年会や新入生歓迎会を開き、サークル活動外でも絆を深めています。みんな和気藹藹とした雰囲気の中で青空の下、楽しくテニスをしています！！

ACサークル紹介

篠原　千紗

こんにちは！ＡＣサークル部長の篠原です。

皆さん、ＡＣサークルを知っていますか？毎年“いとすぎ祭”でファッションショーをしていることを知っている方は多いと思います。

ACサークルのACと、はActive Createの略で直訳すると活発な創造という意味になります。私達ACサークルは、部員数は約20人という比較的小さなサークルですが、年１回本学で行われる大学祭“いとすぎ祭”でファッションショーをしようという趣旨で、楽しく仲良く活動しています。

ファッションショーといっても、衣装からヘアメイク、舞台、音楽と全て手作りで、それを作りあげているのも、ショーで歩くモデルも、日本赤十字豊田看護大学の学生です。

このACサークルのファッションショーは、毎年成長しています。回数を重ねるごとに規模や完成度は確実にレベルアップしており、今やいとすぎ祭のメインイベントの１つと言っても過言ではないと思っています。いつも見慣れた友達が普段とは別人のように大変身してしまうのも見どころの１つではないでしょうか。とはいっても、ほとんど素人の私達がファッションショーを作ることはそう簡単なことではありません。サークルの中には趣味などで服を作ることのできる人もいますが、ほとんどが未経験者なので、最初から最後

まで想像と少しの知識で作り上げています。もしかしたらActive Createという名前はここから由来しているのかも知れませんね。

ショーを作り上げるには、一言では言い表せない程、本当に苦労がたくさんあります。
しかし皆で力を合わせ苦労して作り上げたファッションショーの成功は、この上ない達成感と強い絆で結ばれた仲間を与えてくれると思います。

同じ日本赤十字豊田看護大学の学生ならば、部員として、モデルとして、観客として、どの形でも構いません。ACサークルのファッションショーに参加してみてください。

感動すること間違いないですよ！！

なんか…汗臭くない!?　佐々木　康行

いきなり変な題名なのですが、私たちのサークルは発汗部と言います。発汗部とはフットサルをするサークルのことです。ところで、なぜ「発汗」なんて名前がついているのか疑問に思う人が多いと思うので、簡単に説明させていただきます。「一、汗臭い　二、足臭い　三、男臭い」を発汗部の三ヶ条として掲げて、みんなで体を動かして汗をかこう！というのがサークル名の由来です。ちなみに、フットサルとはあまり弾まないボールを使い、室内で行うミニサッカーのようなものです。そして、発汗部はこの大学で唯一の男子サークルなのです！！

発汗部の活動は週に１回、夏のどんなに暑い日でも、冬のとても寒い日でも体育館でフットサルを行っています。活動内容は主にゲーム形式の試合を行っています。しかし、男子の人数が初めから少ないため、人の集まらない日もあります。そんな時には少ない人数で練習を行います。練習の内容は、初心者には基本を教え、それに慣れてきたらゲームの中でもおこなえるような技術を練習します。

時には先輩方が参加をしてくれるときもあります。先輩方は技術を教えてくれたり、ゲームを盛り上げてくれたりして、学年など関係なく、みんな仲良くフットサルをして汗をかいて楽しんでいます。

また、練習の成果を見る機会として年２回ほどですが、他大学との交流試合を行って交流をはかっています。交流とは言ってもゲームは本気で行い、勝敗を決めます。今のところは１勝２敗と負けていますが、次は必ず勝ちたいと思います！！

この発汗部というサークルは、経験者も未経験者も、フットサルをしている男がとても輝けるサークルとして、汗臭く・足臭く・男臭く汗をかきながら今後も活動していきます。

平成20年度公開講座

心の健康シリーズ

第2回パーソナリティー障害：9月27日
第3回うつ病：10月25日

教授　端谷　毅

平成21年度公開講座では、生まれつき持って生まれた能力の欠損としての「広汎性発達障害」、生まれ持った素質も関係するが、親や環境によって影響されることが大きい「パーソナリティー（人格）障害」、その障害のため周りとの関係がこじれ（虐待やいじめ等）ストレスが多くなったり、現代の社会的ストレスが増大したりすることによって発症する「うつ病」、誰もが避けられない老化と疾患による「認知症」をシリーズでお伝えしていきました。ここでは、４回のうちの第２・３回を紹介します。

１．パーソナリティー障害

パーソナリティー(人格)障害とは何らかのきっかけで、性格や行動の問題が極端に出てきて、本人もしくは周りが社会的に困ったときに問題となります。ICD10（国際疾病分類）では、さらに回避性や境界性などそれぞれの性格の特徴により10種類に分類されています。著しく責任感が強い場合は強迫性パーソナリティー障害、著しく責任感がない場合は反社会性パーソナリティー障害、著しく自信がなく、人とまったく関わらないようにひっそりと生きようとすると回避性パーソナリティー障害、著しく自信過剰で何でも自分の思うようにならないと気がすまない人は自己愛性パーソナリティー障害と呼ばれることになります。

この方々に共通する性格として、全か無か、白か黒か、パーフェクトか大失敗かといった両極端で二分的

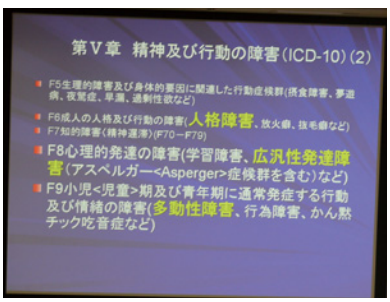
な認知があります。また、自分が良いと思うことは人もいいと思うはずだと思い込んでいて、自分と周囲の境目が曖昧なこともあります。さらに他者を心の底から信じたり、心から気を許すことができにくく、相手を必要以上に試したり、裏切られる前に裏切ってしまう、信じられる人を次々に探すような行動を取るところもあります。高すぎるプライドと劣等感が同居し、自分のイメージがとても理想的で完璧なものと、劣悪で無価値なものに分裂し、両者が同居していることも特徴です。このような際立った性格ですが、その性格の特性に気がつかないため、生きることがとても困難になります。これらの人々は、薬物療法（抗うつ薬、気分安定薬、抗不安薬、非定形抗精神病薬）やカウンセリング（精神療法、認知行動療法、家族療法、など）などの力も借りながら、自分自身の弱さや考え方のゆがみを知って、自分自身を楽にしてあげることが必要です。

２．うつ病

心の病気には「ストレス脆弱性モデル」があるといわれています。どんなに心の強い人でも、とても強いストレスをかければ必ず心の病気になります。また同じストレスを与えても、心の強さ（脆弱性）によって病気になる人とならない人がいます。うつ病（うつびょう、鬱病、欝病）もいろいろなストレスの強さと、パーソナリティー障害などの考え方のゆがみを含めた脆弱性により発症すると考えられます。

症状としては、抑うつ気分や不安・焦燥、精神活動の低下、食欲低下、不眠症などが現れます。うつ病は脳と心の両面から起こるとされていて、「脳の病気」という面では、ある脳内物質（セロトニンやアドレナリン）の不足が想定されています。治療には脳内に不足している脳内物質（ドーパミン、ノルアドレナリン、セロトニンなど）の分泌を促進させる薬物治療が行われています。うつ病にはあまり生活に支障をきたさないような軽症例から、自殺企図など生命に関わるような重症例まで存在して、男性より女性のほうが２倍ほど多い病気です。

また仮面うつ病といって、頭重感、胃部不快感、頻尿、便通異常、肩こり、めまい、身体がだるい、性欲や食欲の減退などの身体症状が訴えの中心で抑うつ症状があまり出ない場合もあります。しかし、いずれも適切な休養と薬物療法などで十分回復します。



パーソナリティー障害、うつ病いずれにしても、早目に専門家の方に相談してください。

「はつらつ生活は食育から」

小児看護学　助手　鈴木　弘美

「学んで健康！はつらつ生活」をメインテーマとした今年度の公開講座。

第４回目の今回は、「食育」について、地域住民の方を対象に開催し、小児看護学領域の教員（中垣、鈴木、大矢）が担当いたしました。当日はあいにくの天気にも関わらず、豊田市、名古屋市より、30代から70代の男女合わせて13名の方に参加いただきました。

講座内容としては、厚生労働省が発行している「食事バランスガイド」を用いて、参加者に普段の食生活を振り返っていただきました。「食事バランスガイド」は、コマのようなイラストにより、１日に「何を」「どれだけ」食べたらよいかをわかりやすく示しています。バランスよく食事が摂れていれば、コマは転ばずにうまく回るということです。

参加者からは、自身の健康管理について食の面で気になっていること、注意することなどの質問がありました。途中で、地元で生産された鮮度の高い食材を使用したメニューを紹介し、実際に参加者に試食をしていただきました。メニューは「かぼちゃのスープ」と「彩り野菜蒸しパン」です。これは前日から担当教員が準備した力作！で、おかわりをしていただいた方や、レシピを希望される方もみえ、終始和やかな雰囲気で講座を終えることができました。

メタボリックシンドローム（高血圧、血中脂質や血糖値の異常、内臓肥満）や昨今の食品偽装問題など、「食」に関する話題に事欠かない時代の中に私たちは存在しています。今回の講座が、食に対して一人ひとりが見直しをはかるきっかけとなれれば幸いです。そして、今後も地域の方々の「はつらつ生活」に役立つ活動をしていきたいと思います。

「愛知県集中豪雨救援活動に参加して」

稲垣亜有子

私は「日本赤十字豊田看護大学青年奉仕団」のサークル活動として、平成20年８月28日に愛知県を襲った集中豪雨の災害ボランティアとして救援活動に参加しました。活動を行ったのは９月２・３日で、今回の集中豪雨で特に被害の大きかった岡崎市へ赴きました。

今回私が災害ボランティアに参加した理由は、自分が住んでいる町「岡崎」が愛知県の中でも特に大きな被害を受けたことにあります。私の住んでいる地域では床上浸水などの被害はなく、深夜、岡崎市全体に避難勧告が出たことさえも知りませんでした。しかし朝起きて外を見てみると、近くの川が氾濫して自衛隊の人たちが救援活動を行っていたり、さらに朝のニュースを見ると岡崎市が多大な被害を受けているという報道が繰り返されていたりと、一夜のうちに起きた出来事に驚きを感じました。

実際の現場に行ってみると、自分の身長よりも高い所まで水が来た跡があったり、床上浸水で駄目になった畳や家具が道路に置かれていたり、車の中にまで泥が侵入していたりと、今まで見たことのない光景が目の前に広がっていました。また夏に起きた災害ということで、道路に散乱した泥や木々が悪臭を放っており、報道では伝えきれていない現実に驚きを感じました。このような環境の中でも住民の方々は、被害を受けたことにショックを受けながらも必死に片付けを行っており、救援物資を渡す際には「こんなものがもらえるとは思わなかった。ありがとう」「こんな大変なところに来てくれてありがとうね」と声を掛けてくれる方々もあり、逆に励まされてしまうことが多かったです。また救援活動を行っていると、赤十字のボランティアだけでなく、道路に散乱した泥を片付けるために市民がボランティアとして参加していたり、炊き出しを行い地域住民に配布したりしているボランティアの方々がいることに気づき、災害時には周りのみんなが協力し、支えあっていくことが大切であると学びました。

今回、災害ボランティアとして集中豪雨で被害を受けた地域に行き、救援活動の実際を知るだけでなく、地域住民の姿や思いを知り、多くの学びを得ることができました。今後身近で災害が起こった際には、看護を学んだ者として率先して動けるような存在になるよう頑張っていきます。

情報化・標準化時代の看護

基礎看護学　杉浦美佐子

一般に、看護師の看護行為では、対象（患者）への看護に関わる様々な情報を詳細に観察・収集し、吟味を行い、取捨選択し、分析・判断する能力、すなわち情報活用能力が問われます。この一連の過程は、問題解決志向型システム（POS：Problem Oriented System）やクリティカル・シンキング（Critical thinking）と同じ過程を経ており、看護の場では「看護過程（nursing process）」と呼ばれています。看護過程は、(1) アセスメント(患者の看護問題を抽出する)、(2)看護診断（看護問題を確定しラベル付けを行う）、(3)計画立案（問題解決の優先順位を決定、問題解決のための具体的な達成目標の設定と計画立案）、(4)実施（立案した計画に沿って実施）、(5)評価（実施後の結果、問題解決の程度、有効性を評価）の５つのステップで構成されており（1973年、ANA米国看護師協会）、この過程を着実に推し進めていくことを「看護過程の展開」と言います。したがって、看護師養成課程における教育では、看護過程を臨床場面で展開する力を身に付けさせることが求められます。

一方、社会の高度情報化に伴って、医療・看護の現場においても膨大な情報が蓄積されており、上述の看護過程の展開においても、そうした膨大な情報を取り扱うことを前提に遂行されています。現実に最近の臨床現場では、カルテ・看護記録の電子化の格段の普及という状況が進行しています。電子化のためには，「共通用語」が不可欠となり，その「共通用語」としてNANDA（北米看護診断協会）看護診断指標※1やクリティカルパス※2が急速に使用され始めています。これにより、看護師の提供するケアの均質化・経験差の縮小・知識の普遍化・学問の体系化・知識データベースの構築・マネジメントを目指した「標準化」が進みました。しかし、こうした動向を患者の立場から見ると、ただ単に画一的な看護だけではなく、それぞれの患者に適した、「個別化された標準化医療・看護」の遂行が望まれているといえます。臨床現場の急速な情報化推進は、とりあえずの標準化に留まる組織が多く、まだ個別化（tailor-made）看護を提供できているとは言いがたいのです。というより、電子カルテ・クリティカルパス・看護診断導入といった波に乗って、過去から現在まで十分達成できていた個別化看護（看護のアート）を、言語化・記録化できないまま捨て去っている感も否めません。標準化を軌道にのせた後、次の個別化をどのように保障するかが、私たち看護職につきつけられた大きな課題です。

臨床現場へ伺ったとき、構築され運用されている看護支援システムは、看護の視点をもって患者の全体性

を捉える「患者データベース」をもつシステムとなり得ているのか、ただ単に医学モデル一辺倒のシステムになっていないか？と、気がかりが多いこの頃です。看護師の仕事は、「診療の補助」に加えて、「療養上の世話」もあることを忘れず、着実に実践できる看護師を育てたいと、肝に銘じて学生に接している日々です。

※1 NANDA看護診断指標：北米看護診断協会が開発している看護の標準言語体系の一つ、看護診断分類、看護介入分類、看護成果分類がある。

※2 クリティカルパス：一定の疾病や疾患を持つ患者に対して、入院指導、検査、食事指導、安静度、理学療法、退院指導などのルティーン行為を、時間軸を横軸、ケア介入を縦軸にして、スケジュール表のようにまとめたもの

平成20年度 中部ブロック赤十字病院夏季セミナーを開催

奥村　潤子

中部ブロック赤十字病院夏季セミナーは、中部ブロック赤十字病院の教育支援を目的として開催され、今年で３回目となります。今年度は平成20年８月20日・21日の２日間開催しました。

内容は、昨年からの継続テーマ「看護研究」でした。対象者は赤十字キャリア開発ラダーの「レベルⅢⅣ」の方々で、15施設から23名の参加者がありました。

事前に提出された研究計画書の内容や希望によって、量的研究・質的研究・事例研究の２グループにわけ研修をすすめました。グループ内では個別に教員が担当し、研修生の研究計画書の再検討や文献検索を行ないました。限られた時間のため文献検索で終わってしまった研修生もいましたが、概ね基本的な研究のすすめ方を学ぶことができたようです。研修生の満足度も高い回答を得ました。

中部ブロック赤十字病院夏季セミナー日程表

月日	時間	内　容	月日	時間	内　容
8/20 (水)	13:00	オリエンテーション 渡邉学長挨拶 基調講演　学部長　野口眞弓 「研究に役立つ文献の検索方法」	8/21 (木)	9:00 12:00 13:00 14:30	ワークショップ 昼食・休憩 ワークショップ まとめ・報告
	15:00 ～ 17:00	ワークショップ		～ 16:00	閉会

Academic Library 図書館の季節　夏編

司書　中尾　明子

本学の図書館の夏は一般大学に比べ、おそらく短いでしょう。前期試験が梅雨明けに行われ、夏期休業が８月に入ってから始まることも理由のひとつです。

卒業研究のためデータベースを使って文献検索を行い、資料を集める４年生の姿はどこの大学でも見られると思いますが、卒業研究と平行して国家試験の学習に余念のない４年生の背中は、後輩たちに「社会の入り口に立とうとする真剣な緊張感」を伝えています。そして８月の下旬より２年生が実習に入るため、看護技術のDVDを見たり、資料を集めたりして実習前の確認を行う姿が多く見られます。ですから、図書館内を見る限りでは、あまり夏期休業中であることを感じさせないのです。

では、夏期休業中に帰省する学生の皆さんはどうしているのでしょうか。多くの大学図書館は公開が進んでいるので、そこを利用させていただいています。本学図書館には、近隣の看護専門学校の学生や教員も訪れます。「自宅が近いので」「研究の資料が集まっているので」という他大学の学生、院生も訪れています。看護研究や資料を調べるために地域の医療者にも利用されています。

基本的に、他機関の図書館の利用は学習する場所の提供ではなく、その図書館が所蔵している資料の利用が主目的です。紹介状の必要な図書館には発行しますので、どうぞ気軽にカウンターに声をかけてください。紹介状が不要でも、他大学図書館を訪問する際は事前に電話をかけること、学生証を携帯することも、利用するときのマナーです。

また、夏期休業中は図書に限り、長期貸し出しを行っています。学生の方のみの特典ですので、日頃、手にとり損ねている長編小説なども楽しんでください。

研究の窓、研究室紹介 疫学と多変量解析

教授　西川　浩昭

「疫学とは、病気の原因を追究する」誰が言ったかは覚えていませんが、簡潔にして明瞭な表現であり、私が聞いたときはかなり衝撃的で、強い興味を覚えました。その後四半世紀にわたり、この疫学という領域で暮らしています。疫学が関係する分野が広いのと欲張りな性格のためか、調査法やテスト理論、さらには統計学、なかでも多変量解析まで様々なものに手を出していますが、自分の根は疫学にあると思っています。

健康問題を扱う上で原因を明らかにすることが重要であることはいうまでもありません。原因が判らないのでは、対策をたてようがありません。しかし、原因を明確にできるかといえば、近年問題となっている生活習慣病と呼ばれる慢性の非感染症では非常に困難です。原因が単一ではないことに加え、その原因同士が複雑に絡み合っているためです。その関連性を紐解き、健康問題を計量化しようと試みて、始めたのが多変量

解析です。この多変量解析、最初は魅力的で面白さに導かれていたのですが、最近はどっぷりと浸かっています。ちなみに、多変量解析とは複数の要因間に内在する関係を明らかにする解析方法です。一度はまるとなかなか抜け出せないだけでなく、次々に新しい手法が開発され、追っかけるだけで精一杯という状況で、パソコンの前に座っているという日が続いています。

こうしてみると、だんだん自分の根が疫学から離れているような気がしています。研究者としての第一歩を踏み出した大学院生の頃ほどの体力はなく、体重はかなり増えました。疫学の祖と言われるJohn Snowが、ロンドンのコレラによる死亡者数をひとりひとり数え上げたように、大学院時代の様に泥臭くフィールドを駆け回って調査をしてみたいと思う毎日です。

Information

平成21年度公開講座のお知らせ（4月～9月）

講座名・担当	日時・場所	内　　容	人　数
生活に笑いとユーモアを **基礎看護学** **担当：杉浦教授**	平成21年6月13日（土） 10：00～12：00	健康と笑い、ユーモアの関係について講話をします。その後、笑い、ユーモアを具体的に生活に取り入れる練習をします。	50名程度
高齢者の誤嚥について **老年看護学** **担当：小林（尚）講師**	平成21年7月11日（土） 10：00～12：00	誤嚥の危険性と予防法 高齢者に生じやすい、食事時のムセについて、その原因から理解します。	20名程度
睡眠 **専門基礎** **担当：端谷教授**	平成21年9月26日（土） 10：00～12：00	睡眠はどんな元気な人でも絶対必要な人間の生理的現象です。しかし人は悩みがあると眠れなくなります。そしてどんどん脳を壊していきます。その結果、うつ病などの病気を引き起こします。また睡眠は記憶を固定する時期と考えられています。そんな睡眠の役割と心の働きを説明します。	50名程度

平成21年度入学試験志願者状況

入試区分	募集人員	志願者	合格者
高等学校長推薦入学試験	30	26	24
日本赤十字社中部各県支部長推薦入学試験	30	35	34
社会人特別選抜入学試験	5	3	3
一般入学試験	55	370	129
合　　計	120	434	190

平成21年度大学の動き（4月～9月）

月	行事予定	月	行事予定
4月	入学式	7月	単位認定試験
	オリエンテーション		オープンキャンパス（25日）
	新入生合宿研修	8月	前期講義終了
	健康診断		前期補講・追再試験期間
	前期講義開始		夏季休業開始
5月	体育祭・大学祭（30日）		オープンキャンパス（22日）
		9月	夏季休業終了

編集後記

春の息吹を感じながら、本号の発刊に至りました。いつもながら、皆様のご協力に感謝いたします。

大学も６年目を迎え、学生も教職員も、去る人あり来る人あり。新たなエネルギーを注入して、さらに大学として発展していきましょう。

いとすぎの丘 Vol.9

発行日／2009年4月
編集・発行／日本赤十字豊田看護大学
広報・公開講座委員会、企画・地域交流課

〒471-8565　豊田市白山町七曲12-33
TEL 0565-36-5228　FAX 0565-37-8558
E-Mail　info@rctoyota.ac.jp
HP　http://www.rctoyota.ac.jp